



子どもたちを放射線の被ばくから守るために

●子どもの被ばくが危険な理由

私たちの体は、約 60 兆個の細胞からできています。その中には身体的设计図ともいふべき DNA があります。放射線によって DNA が傷つけられると、うまく修復できずに細胞が死んだり、修復ミスで変異を起こして、発ガンに結びつく可能性があります。

子どもは細胞分裂が盛んなため放射線に対する感受性が高く、0 歳の赤ちゃんは 40 歳の人の約 4 倍放射線の影響があるとされています。また、子どもはその後の人生が長く、放射線の影響が蓄積され発ガンする可能性も高いのです。

●福島における甲状腺がんの最新状況

2011～2015 年の間、福島県の 18 歳以下（事故当時）の子どもたち 28 万人を調査

悪性ないし悪性の疑い…166 名 （2016 年 2 月 15 日公表）

※ 国立がんセンターの統計では、0 歳～19 才の甲状腺がんは、多くて年間 3 人／100 万人。
東京電力福島第一事故後、福島における小児甲状腺がんは、年間約 100 人／100 万人。

「県民健康調査」の検討委員会は、100 人を超える小児甲状腺がんについて、通常より「数十倍のオーダーで多い」としながらも、チェルノブイリよりも被ばく線量が低いなどの理由により「放射線の影響とは考えにくい」と結論づけています。

●進められる帰還政策

政府は、福島第一原発事故後、限度線量を 20mSv／年に引き上げ、妊婦・乳幼児を含む住民を福島に戻すための帰還政策を積極的に行なっています。原子力エネルギーの利用を促進するために、「低線量の被ばくは科学的証明がないので安全」と、原発・放射線のリスクを過小に評価しているのです。

※ICRP（国際放射線防護委員会）の公衆に対する線量限度は 1mSv／年

●未来に希望をつなぐために

原発事故は、私たちの生活を根こそぎ奪ってしまいます。特に子どもたちへの影響は大きく、ひとたび原発事故が起きると、その被害は何世代にもわたり続いてしまうものです。私たちは放射線被害から身を守り、子どもたちのいのちと健康を守るため、一人ひとりが科学的根拠に基づいた判断力をつける必要があります。

そのためにも、今後も学びを重ね、未来に希望をつなぐ選択をしていきたいと思ひます。

子どもたちの未来と被ばくを考える会

事務所：和歌山市三番丁 6 番地 関西電電ビル 4 F 金原法律事務所内

<http://kodomomiraikibou2012.seesaa.net/> 連絡先・事務局：TEL:073-451-5960（松浦）

